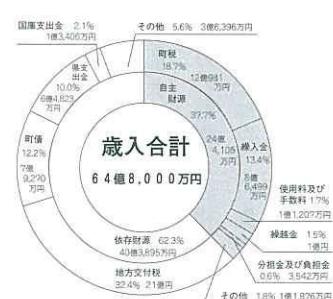




板谷議員

1. 行政改革と財政運営、 どう進める 2. 職員の数の適正化の具体案は



質問 今度つくれた行政改革大綱及び経常的経費の歳出削減の必要性について伺う。まず、行政改革大綱作成の基礎として、現状のわが町の財政状況を知りたい。具体的には、平成18年度の基金の取崩はどの程度のものになるか（過去4年間平均年約3億円の取崩を続

要性 施設の管理運営方法等も検証する道として行政改革大綱を策定している。

か。5年、10年の計画の中でだんだんと基金に頼らない財政運営のしくみをつくっていくべきではないか。

町長 町民懇談会で
年後の143人という数
出した。またさまざ
りシミュレーションの
も140人台の人数を三
せてもらっている。
10年後140人台は甘い
みだと思つてゐる。
としてはもつと削減す
ければ、継続的な時

The image shows the exterior of Kawaguchi City Hall. The building has a modern design with a curved roofline and large glass windows. A prominent entrance features a sign that reads "川根本町役場". Above the entrance, there is a smaller sign that says "川根本町庁舎玄関". The building is surrounded by some greenery and trees.

町長 現状では具体的な
基金取崩の見込み額を答
えることはできない。た
だ、厳しい財政事情を反
映し、3月補正予算の時
けている。)

町長 財政運営の持続性から基金に頼らない財政運営をしていかなければいけない。19年度以降はそういう財政運営をしていきたい。当然事業の延

度の收支のアンバランスがあるが、これを約3億円程度押えていく。そのため事業の精査をするのが19年度予算だと思つてゐる。

質問 10年間で50人減る常はできないと考える。ということだが、住民サービスを落とさないようどうサポートしていくのか。

町長 平成13年度以降の基金の取崩状況を見れば、どういふのは乱暴ではないか。5年、10年の計画の中でだんだんと基金に頼らない財政運営のしくみをつくっていくべきではないか。

町長 町民懇談会で考へを伺う。
年後の143人という数
出した。またさまざま
シミュレーションの
も140人台の人数を云
せてもらつてゐる。
10年後140人台は甘い

等から連合する公の部分 民間と行政が重なる部分 をしつかり体制整備していかなければならない。 行政と住民の役割分担を制度的にもしつかりしていくことがこの10年間の課題である。

期、中止ということも入ってくる。平成19年度予算では、歳入歳出のバランスをとるため、3億円程度の予算の縮小を行なわなければならない。

質問 職員の数の適切について、大綱では間で14人の減といふが出されている。加えて、最近、今後10年間で136人、50人ぐらい減するという案が云々た。これについて町

町長 今、公が担つて、いる部分をどう受け持つてやつていくかということだが、民間を含めたさまざまなサービスの主体をつくっていかなければならぬらしいと思う。特に今後

1. 基金に頼らない財政運営を目指す
2. 10 年で 50 人の削減が必要